～ くらしの中に演劇を ～　**宮崎市民劇場**　**第198回例会**

2025年10月8日（水）　開演18：30（開場18：00）

会員制　入会金・月会費（大人2500円・学生1500円）

会　場：　宮崎県立芸術劇場　演劇ホール　（メデキィット県民文化センター）

問い合わせ　〒880-0805　宮崎市橘通東 3-3-8　カブトビル3F　**0985-62-0075**

ASPイッツフォーリーズ公演

脚本　矢代静一
脚本・作詞　藤田敏雄
演出　鵜山仁
音楽　いずみたく

ミュージカル 洪水の前

【演奏】
吉田さとる（Key.）
えがわとぶを 佐藤哲也（B.）
中沢 剛 萱谷亮一 三木洋介（Drs.）

いずみたくミュージカルの代表作「洪水の前」を鵜山仁演出で再演！
僕には何もできない、できるのは「平和」に別れをつげることだけ ―――

陰山 泰

宮田佳奈

小原悠輝

吉田 雄

目黒未奈（文学座）

神野紗瑛子

ブッチィー

松田 周（青年座）

東城由依

矢野叶梨

近藤萌音

松本裕子

志賀遼馬

スウィング
高岡千紗

舞台は 1931 年、日本統治下の大連。中国でありながら、租界地では外国人が居住し、貿易や経済活動を行い賑わっていた。また、日本の中国侵略活動の根拠地として在留日本人も多く集まっていた。そんな大連に作家志望の青年、日暮隆夫が放浪の旅のすえにやってくる。日暮は無為徒食の日々を過ごし、かろうじて生計を立てていた。ある日、日暮のところへ、友人の安東泰男が一人の娘を連れてくる。彼女の名前は徳大寺茉莉。ダンスホールでジャズを歌っているというが、好き勝手に生きる、モラルのかけらもないような一筋縄ではいかない女性であった。茉莉が日暮の住む下宿屋に転がり込んで来たことから、二人のまわりでは様々な事件が続出する。やがて、自由気ままに暮らせていた租界地にも戦争の影が近付き、満洲事変までの火種がくすぶり始めるのだった――。

昭和 57 年度芸術祭賞・優秀賞を受賞した、いずみたくミュージカルの代表作、ミュージカル「洪水の前」。1980 年に初演を迎えた本作品は、財津一郎、秋川リサなどの客演を迎え、いずみたくプロデュース公演としてアトリエフォンテーヌで幕を開けたのち、15 年以上にわたり 200 ステージ余の再演を重ねてきました。

この度、本作、ミュージカル「洪水の前」を、演出に鵜山仁を迎え 25 年ぶりに再演いたしました。主演はミュージカルだけでなく、舞台、ドラマ、映画と幅広く活躍している、陰山泰。狂言回し役の司会者のほか、フィクサーや軍人など 5 役を演じます。ダンスホールの歌姫、徳大寺茉莉役には、イッツフォーリーズの宮田佳奈、作家志望の青年、日暮役は抜群の歌唱力を持つ小原悠輝、日暮の友人、安東泰男役はイッツフォーリーズの中心的存在の吉田雄を配役するほか、個性豊かなダンサーが華やかにステージを彩ります。満洲事変がまもなく勃発する“戦争前夜”＝“洪水の前”の大連で、虚無感や憤り、怒りを覚えながらも抗うことも出来ずに生きる人々の人間模様を描きます。

九演連の皆さまへ

「新しい戦前」ではなく「永遠の戦後」を望む私たちと、劇団創立者の故いずみたくが届ける、日本人にむけたミュージカルです。「おれたちは天使じゃない」で大好評いただき、続いて九州上陸の願いが叶いました。今回も、“いずみたく楽曲”で平和を、戦わない勇気を感じていただければ幸いです。（プロデューサー 土屋友紀子）

【スタッフ】音楽監督・編曲＝吉田さとる　美術＝乗峯雅寛　振付＝川西清彦　衣裳＝前岡直子　照明＝森下 泰（ライトシップ）　音響＝返町吉保（キャンビット）
演出助手＝有坂美紀　映像＝浦島 啓（コローレ）　歌唱指導＝山口正義、坂口阿紀　中国語指導＝管 祥子（劇団影法師）　舞台監督＝岩戸堅一、泉 智幸（アートシーン）
宣伝写真＝岩田えり　ヘアメイク＝きとうせいこ
協力＝石井光三オフィス、ジャンクション、青年座映画放送、文学座、矢代静一事務所　制作＝松本崚汰、鎌田奈々美、刀根友香（イッツフォーリーズ）
プロデューサー＝土屋友紀子　企画・制作＝株式会社オールスタッフ、ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ　主催＝九州演劇鑑賞団体連絡会議